



第103号
北海道教育大学
青陵会

(北海道教育大学岩見沢校同窓会)

会長 早瀬 公平

印刷 北海道社会福祉事業団福祉村
(TEL 0126-45-2300)



〈題字は岩教大、藤根信章元教授の揮毫によるものです〉

- も ○巻頭言…1 ○五校同窓会 会長会議について…2 ○空知支部研修報告…2
- く ○札幌支部研修報告…3 ○石狩支部研修報告…3 ○退職支部長からのメッセージ…4
- じ ○各学科卒業生の代表のことば…5 ○各学科の活動状況…6～7 ○事務局便り…8

新たな同窓会に向けて

北海道教育大学青陵会 副会長 綱淵 秀幸



青陵会員の皆様には、母校同窓会の活動に對しましてご支援ご協力を頂いておりますこと

に心より感謝申し上げます。

さて、母校・岩見沢校は、大学の独立行政法人化に伴い、平成十八年より芸術・スポーツに特化した課程となり、さらに、平成二十六年には、芸術・スポーツ文化学科へ転換し大きくその姿を変えてきました。

その中で学生の活躍は目覚ましく、四専攻それぞれの分野での活躍は、自分が学生だった頃には考えられない各種大会等での好成績であったり、地域・市民に根ざした活動となつていくことにその大きな違いを感じています。

また、その活躍が、岩見沢市民のみならず広く道民にも認知されマスコミにも度々取り上げられることは、同窓として大変うれしく思っているところではあります。

その頑張る学生達に、今年度も九回目となる「学生活動支援基金贈呈式」を行い四専攻代表者に目録(合計五十万円)を贈呈することができました。財源は青陵会員の皆様からの支援金です。しかし、この支援金も会員の大幅な減少に伴い、いつまで続けられるのか本部会費収入と共に大変厳しい現状にあります。

早瀬会長からは、教員のみで創り上げてきた同窓会を早急に改革すべくおよそ二年を目途に持続可能な同窓会組織へと方向転換の道を探るとして「在り方検討委員会」を設置することが提起され、今年度の総会で承認されました。課題は観点別に大きく四点に整理し議論を進めることとなっております。

私は、これらの観点の中で既に平成二十八年五月十三日に教員以外の卒業生で構成された「青陵会公務員・民間部会」が発足していることに注目しています。同窓会の在り方を考え

る上で、既に多種多様な職種に進路を進めた卒業生もこの会の趣旨を理解し「岩見沢校卒業生全てが青陵会員」という意識を持ち、この移行期を乗り越えるための原動力となつてくれることを期待しているからです。

また、今年になり早瀬会長の肝いりでホームページがリニューアルされフェイスブックも併設されました。会の活動内容や直近の学生の活動の様子が見られることから、多くの会員が手軽に利用し情報の収集・発信・交流の場として活用されることで同窓意識が高まることも期待しています。

幾多の母校存続をかけてきた歴史の中で、同窓会の危機が今あります。「在り方検討委員会」で議論される四観点は、これからの新たな同窓会組織として生まれ変わるための道標となるはずで。

平成三十五年を迎える「道青陵創立百周年」には、全ての卒業生が一堂に会し昔話に花を咲かせ互いに同窓意識を高められる場となることを願い結びと致します。青陵会員の皆様の益々のご活躍を祈念致します。

五校同窓会 会長会議

北海道教育大学青陵会理事長 伊藤 祐輔

九月六日の未明に起こった胆振東部地震とそれに伴うブラックアウトの影響が、まだ色濃く残っている一週間ほど後の九月十五日、岩見沢市において、北海道教育大学五校同窓会の会長会議が開催されました。

当初、開催が危ぶまれましたが、各同窓会との連絡で開催に支障がないことが確認され、無事に開催に至りました。

四年に一度、持ち回りで開催されるこの会議は、各同窓会の会長ならびに事務局を司る理事長・専務理事が一堂に集い、各同窓会の現状や課題等について情報交流する場となっています。

今年度、青陵会が担当となり、例年のようにまず開催地区の視察として、教育大学岩見沢校の視察に赴きました。第三体育館や各種施設、屋外の人工芝グランドなど最新の施設設備を紹介した後、音楽科コースの学生の音楽発表を聞き、学科転換してからの学生達



の活動の一端も知っていた、だくことができました。その後、ホテルサンプラザを会場として会議が開始されました。

議題として、各同窓会の母校・教育大との関わりについて情報交流し、各同窓会の現状と課題について、それぞれ悩みを明らかにしながら、今後に向けての意見交流が成されました。各同窓会とも、会員の減少や

会への参加意欲の向上などに将来的な不安を抱えていて、どのような手立てで活性化させるか等、有意義な意見交流が成されました。予定時間を過ぎても熱い協議は終わることを知らず、今後の同窓会としての在り方を互いに語り合う熱心な会議となり、参会者の熱意に感動しました。

会議の後は、青陵会の役員も加わって和やかな雰囲気のもとで懇親会が開催され、岩見沢名物の焼き鳥やワインを味わいながら楽しい歓談がさらに時間いっぱいまで繰り広げられました。



空知支部

空知青陵教育実践交流会

広報情報発信部長 松田 一直

平成三十一年一月十九日(土)午後二時より、岩見沢市「岩見沢平安閣」におきまして、空知青陵会実践交流会が開催されました。第二十九回目を迎えた今回は、昨年に引き続き「自らを磨き、進んで社会・学校づくりに貢献できる人間力の育成・生きる力を育む教育活動につながる実践交流を通して」を研究主題とし、三分科会と講演会を中心に実践交流が行われました。

○第一分科会は「若手中心の教育実践や抱える課題の自由な交流の場」として、二人の方に話題提供をしていただきました。砂川市立砂川小学校の箕田 裕教諭からは『学力を高める学校改善くミドルリーダーの立場から』という題で、授業改善はミドルを中心組織的に進めること。また、夕張市立ゆうばり小学校の竹田吉子教諭からは『学力向上に向けた挑戦くオンライン英会話の取り組み』という題でゆうばり小での実践が紹介され、ICTの導入など環



境整備の必要性について話題となりました。

○第二分科会は、「教育の柔軟性について考えるく少人数制自立型学習教室『みなソラ』の実践を通して」という題で公務員・民間部会(TInetwork)代表 松浦靖高氏からの話題提供を受けて、様々な障がいのある児童・生徒について民間の塾と学校教育との連携のあり方について協議を進めました。

○第三分科会は「学習指導要領全面实施に向けて」という題で北海道教育庁空知教育局義務教育指導班主査 眞田 眞氏から話題提供をしていた。眞田 眞氏から話題提供をしていた。眞田 眞氏の三つの側面について協議し、研修の充実・評価と改善・人的物的な体制づくりの重要性を確認しました。

分科会の終了後、公務員・民間部会の佐藤直輝氏(株式会社ZAWA.COM代表取締役)を講師に迎え「敗者復活くどん底人生から見たもの」という演題で講演いただきました。

個人事業主として起業してからの幾多の苦難と現在の立場に至るまでの経過で人との結びつきの大切さを話してくださいました。



石狩支部
夏季研修会報告
 研修部長 渡邊 琢真

石狩支部では、会員一人一人の課題意識の喚起と、相互の交流を通じた関係づくりを目的に、「石狩の大地に確かな実りを」のテーマのもと、毎年、「青陵会石狩支部夏季研修会」を開催しています。

ここ数年は、教育大学岩見沢校の関係者を講師としてお招きし、学校教育に限らず幅広い視点から教育を考えることをコンセプトにプログラムを組み立てています。ちなみに平成二十八年度は、芸術・スポーツ文化学科の教授であります越山賢一先生を、また、昨年度は、岩見沢校OBでソロアコースティックギタリストの山木将平氏による講演を行いました。

今年度については、八月十八日(土) 札幌のアパホテルにおいて、教育大学岩見沢校OBであり、三笠でワイン造りに取り組んでおられる「山崎ワイナリー」の山崎太地氏を講師にお迎えし、「ワイン造り十年・地域造り十年」という演題でご講演をいただきました。

山崎氏からは、三笠市の農家の四代目として育ったが、スーツで働くことに憧れ、



親とは違う職業に就きたいという思いで教育大学岩見沢校へ進学し、美術研究室で農業と芸術のかかわりについて学んだことや、映画「ぶどうの涙」の脚本を自ら執筆し、映画化されたことで、自分の意識が変化したこと、また、映画によって自社のワインに注目が集まったことを通じて、小さなまちのワインであっても世界のワインと渡り合えることに気付いたなど、自分の仕事の可能性の大きさについて情熱的に語られました。



特に、ワイン造りを通じて、自分が住む地域、三笠市のことを意識するようになり、ワインを造ることで、地域のことをよく知り、地域にとって何が大切かということを理解できたというお話は、現在、教育界において推進されている「コミュニティスクール」のコンセプトである「地域とともにある学校づくり」に通じるものであると感じました。このような思いから、山崎氏のワイナリーでは、三笠市に住む子供たちを農場や工場見学に積極的に受け入れ、学習の機会を提供しているそうです。

参加者からは、地域とともに歩むスタイルは現在の学校に求められているところであり、周囲との共存を常に考えることは、学校教育にも繋がるという感想が多く寄せられました。

札幌支部
「学校課題研修会」報告
 事務局長 磯島 年成

札幌支部では、研修部が会員の年代やニーズを捉えながら研修会を企画しています。その研修会の一つに「学校課題研修会」があります。この研修会は、校長・教頭・主幹教諭・教務主任等を対象として、「今日的な教育課題」を研修内容としてパネルディスカッションを取り入れて学び合う会です。

今年度は、十一月十三日に、六十名程の参加で行われました。今回の研修会のテーマは、「学校のリーダーとして学校課題をどのように解決していくか」学校防災マニュアルについて考える」としました。「北海道胆振東部地震 後ということもあって参加者にとって大変興味深い研修会となりました。

三人のパネリストからは、次のような話題提供がありました。
 ○西川英志教頭(上篠路中)
 「現状の避難訓練の見直しの必要性」「石巻市大川小の教訓から学ぶこと」



○古田浩章教頭(菊水小)
 「校区の特徴で考える防災意識」「ハザードマップの重要性」
 ○瀧澤佳実教頭(新琴似西小) 「危機管理についての小学校と中学校の比較」「子供たちの心のケアの重要性」
 パネリストの話の聞くだけでなく、会場の参加者の考えを色のカードで表すなどして参加意識を高める工夫もあつて有意義な時間となりました。
 札幌市では、現在、「小中学校連携」「近隣校での小中一貫教育の取組」が求められているところです。
 この研修会は、幼稚園、小学校、中学校の校種を超えて互いに学び合うことができるという点からもこれからさらに大切に育てていく必要がある研修会です。



退職支部長からのメッセージ



『空知野』に想う
オホーツク支部長
金子徳郎

物理学研究室で学んだ四年間を終

え、大学を卒業したのは昭和五十六年三月でした。そして翌月からは三十八年間の教職人生が始まりました。振り返ると、二市四町で教壇に立たせていただきました。また短い期間ではありましたが一市一町で社会教育も経験させていただきました。実に、東北海道全体という広範囲にわたる市町村で過ごさせていただきました。

三十代は、小説「二十四の瞳」の影響を受け、自ら願って「利尻島」で九年間に渡って離島教育に携わりました。

四十代は縁があつて、常呂町派遣社会教育主事として三年間生涯学習の仕事に携わりました。その地では「カーリング振興」が私の特命で、たくさんの方と対話をする事ができました。それだけに、ピョンチャンオリンピックで銅メダルを獲得したエルス北見の女子選手の

表彰式は、かつて常呂町のカーリング場で走り廻っていた、あどけない小学生だったころの姿が思い出され、実に感慨深いものでした。私だけの役得です。

四十代後半、学校現場に戻り管理職として北見市に戻りました。この時から青陵会とのつながりが仕事の面においても力強く私を支えてくれました。いつも青陵会とのつながりは、楽しく、厳しくも温かく私にはかけがえない存在でした。その理由を考えてみました。答えは、吉田松陰の言葉にありました。「地を離れて人なく人を離れて事なし、故に人を論ぜ。」

お世話になった青陵会の先輩方の数々の教育実践を思い出すと、「向上する大人の存在こそ、子どもにとって最高の教育環境」「子どもの幸福第一」等々をまさに体現する尊敬する教育者ばかりでした。「人を論ぜんと欲せば、まず地理を観よ」という吉田松陰の言葉があります。大地で学んだ人には、平和とスクラムめざす教育観が育つそうです。これこそが「空知野で学んだ」青陵会の伝統です。

三十八年間の現役生活。たくさんの人と出会い、たくさん経験ができました。すばらしい人生前半だったと思つています。「空知野」で学んだことに誇りもち、生涯「教育者」でいたいと思つています。



「仲間がいれば、可能性は無量大」
空知支部長
高田 宏 昭

「人生で最も自分が変わり、楽しかった時代は？」と問われると、迷いもなく「大学の四年間。」と答えます。昭和五十六年の三月に卒業し、古い木造校舎と新しい校舎の両方で過ごした世代の私にとって、専攻の美術と剣道部の先輩、後輩、先生、仲間たちとの出会い、共に笑い、泣き、語り、汗をかいたあの日々はかけがえない財産でした。決して広いキャンパスではない、小さな学校の強みは、人との関わりが深く、悩みや喜びを共有し、互いに磨き合い、助け合う同窓の繋がりが強いこと。

教師になった後も、遠く離れた友との交流は続きます。所属していた剣道部では、真武会というOB会があり、今でも年二回の稽古会と懇親会を継続しています。わずかではあります。学生への支援を行っているの

は、OBとしてのささやかな恩返し
の思いからです。

また、同窓の先輩たちからの「指令？」を固辞していた自分が管理職になった頃から、青陵会との繋がりは一層強くなりました。素晴らしい先輩たちが未熟な私を支えてくれた、そのご恩は忘れられません。そして、空知青陵会長の任に就いた私を支えて頂いた同僚や後輩の皆様から感謝しています。

さて、空知では、三年前から実践交流会の研修主題を「自らを磨き、進んで社会・学校づくりに貢献できる人間の育成」へ生きる力を育む教育活動につなげる実践交流を通してと変更し、教職員以外の仕事に就いている同窓生も講師に招き、教職員中心の研修からの脱却を進めて来ました。近い将来、教職に就いている同窓が数えるほどになってしまう青陵ですが、道青陵「在り方検討委員会」を中心に、プラス思考で、新しい青陵の姿や可能性を展望しながら、具体化を構築していくことが大切だと思つていきます。

結びに、同窓会という媒体が、新たな友愛と信頼をもたらし、親愛なる青陵会の発展と皆様のご活躍を心から願ひ、感謝の言葉に代えます。

卒業生代表のことば



音楽文化専攻
吉尾 夢夏

私は、大学生生活の四年間でとても

沢山の思い出を得る事ができました。特に印象に残っているのは、毎年行なわれる音楽文化専攻全体の定期演奏会です。なかでも、四年目の定期演奏会がとても印象深いです。

この定期演奏会では、合唱や吹奏楽、弦楽アンサンブルなどさまざまなジャンルの曲を演奏するのですが、メインプログラムとなるオーケストラで、ムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」という大曲に挑戦しました。最高学年としての責任と、良い演奏会を創り上げたいという思いが私達を奮立たせてくれたと思います。

演奏会は無事成功をおさめ、岩見沢公演と札幌公演の両公演をあわせて約千人のお客様にご来場頂きました。ご来場いただいたお客様からは、たくさんのお誉めの言葉を頂き、本当に四年間頑張ってきた良かったと心から感じました。また、演奏会

を成功させることが出来たのは、たくさんのご支援を頂きました青陵会のみなさまのお力添えあつての事だと存じます。

本当にありがとうございました。



美術文化専攻
浜谷 未由

私が北海道教育大学岩見沢校美術文化専攻に入学してから四年がたちました。この四年間は自分の作品と向き合う時間としては長い時間でした。多くの芸術作品や同じ志しを持った友人たちに囲まれ、様々な感性に触れると同時に、自分の思い描く表現をすることは難しいことであると知りました。

そして大学生生活の集大成である修了・卒業制作展が開催される季節になりました。この卒業作品は私が今までで作品と向き合い、制作する喜びと、思い通りにいかず悩んだ経験を取り越え、今できる全てを詰め込んだものです。将来私がこの作品を見た時、大学生生活の四年間の様々な

体験を思い出すでしょう。

また、卒業した後も続く、美術に対する自己の成長のひとつの通過点として、かけがえのないものになるはずです。そして、自分の可能性を信じて作品制作を今後も続けていきたいと思っています。



スポーツ文化専攻
藤本 咲季

四年前の春、大学生生活に胸を膨らませていた私たちにも、旅立つ時がやってきました。

今までの学生生活に比べ、自己選択が増えた大学生生活。自分を甘やかすも厳しくするも、共に大切であると感じられた生活を送ることができました。その度にお世話になった、教授や講師の方々、先輩後輩や同期、また、地域の方々感謝しきれません。本当にありがとうございました。

この四年間で培った力や思い出を胸に、新たな生活をより一層素晴らしい時間にしていきます。また、今後は私たちも在校生が充実した活動ができるよう、サポートできればと思います。



芸術
スポーツビジネス専攻
小山 拓海

大学生として、過ごす四年間はあつという間に過ぎ去って行きました。

思えば、二〇一五年の四月、神奈川県から単身、岩見沢にやってきた私には、挑戦の連続でした。慣れない土地、初めての一人暮らしでありながらも、多くの友人に恵まれ、楽しく、互いに切磋琢磨しあい、非常に充実した学生生活を送ることができました。スポーツマーケティング研究室に所属し、曾田雄志先生の指導の下、日々学びと実践を繰り返した。たくさん経験を得て、スポーツの力強さを感じることができました。また、部活動ではハンドボール部に所属し、選手を務めながらも、女子部のマネージャーを務め、五度の全国大会を経験し、これ以上ない、かけがえのない思い出をたくさん創り得ることができました。次の進路では、一般企業に就職をし、北海道教育大学岩見沢校の卒業生として大きく飛躍できるよう努力して行きたいと思えます。

各 学 科 の 活 動 状 況

「音楽文化専攻の日常活動」

新保 七星

音楽文化専攻では、教職的な授業や必修の授業の他に専門的な授業を受講することができます。ソルフェージュや音楽理論などの音楽の基礎となるような授業をはじめ、実技レッスン、オーケストラ・吹奏楽の合奏、室内楽等の本格的な音楽の勉強をすることが出来ます。

音楽文化専攻には教職の道を志す者がいることはもちろんのこと、プロの音楽家、一般就職、大学院進学や海外留学を考えている人も多いため、本格的な分野の授業を受けられるという事はとても幸せです。札幌交響楽団の先生方のレッスンを受けられる事や、今の時代を駆け巡っている教授や准教授の先生方の下で音楽を学べるということも、この大学の強みとも言えます。

音楽文化専攻は日々授業を受けるだけではなく、自分が専攻している楽器や副科として受講している楽器などの練習も行なっています。個人的な練習はもちろんのこと、各自のコンクールや演奏会に向けて練習を行い、日々研鑽を積んでいます。

その他に学外での演奏活動も幅広

く行なっており、岩見沢市内や札幌近郊の公共施設や駅、病院、学校等、様々な場所で演奏をさせていただいています。

専攻全体としては、毎年開催しているスーパードライヴという吹奏楽履修者による演奏会や、こちらも毎年開催している定期演奏会を、岩見沢と札幌にて二日間に渡り演奏させていただきますました。毎年、沢山のお客様にご来場いただき、ご好評をいただき、とともに、地域の皆様に私たちの活動も知っていただく機会になっております。このような素晴らしい演奏の機会をいただけることは本当に幸せなことです。常に感謝の気持ちを忘れず、演奏で恩返しができるよう、今後も努力していきたいと思えます。

青陵会の皆様のご支援があるからこそ、音楽と真摯に向き合い、日々精進できていると思えます。皆様の気持ちを裏切ることはないよう、精一杯勉学に励んでいきます。



「美術文化専攻の日常活動」

福井 智也

美術文化専攻は、美術・デザインコース、書画・工芸コース、メディア・タイムアートコース、美術文化教育コースの四つのコースで編成されています。それぞれのコースの学生が自分の専門分野を中心に、様々な「美術」について学んでいます。

本専攻では、絵画、彫刻、書、工芸、現代美術、映像メディア、デザインなどの表現分野と、美術理論、美術教育といった理論分野について多角的に学ぶことができます。

学生は日々、自分の作品や研究をより良いものにするため努力を重ねています。技法の習得、表現の工夫、理想の追求など、一人の表現者、研究者として積極的に活動しています。

日々の活動の成果は、展覧会などで発表させていただいております。毎年七月に専攻全体で行う「七月展」をはじめ、各学年や各研究室で行う展覧会、個展など、作品発表の場を数多く設けさせていただき、多くの皆様にご覧いただいております。特に、岩見沢駅の駅舎内にある本校の施設「北海道教育大学岩見沢校BOX (1-BOX)」では、様々な展覧会を開

催させていただいております。学生は作品を制作するだけではなく、展覧会に参加、運営することで、企画・運営をする方法も学んでいます。また、ご来場いただいた方々から様々な声をいただくことができ、大変勉強になります。

そして、院二年生及び学部四年生は、二月に開催する「修了・卒業制作展」に向け、一年以上かけて作品制作や展示の準備を進めています。この展覧会は岩見沢と札幌の二会場で開催となり、毎年数多くの方にご来場いただいております。展示されるのは、一人一人の学生がこれまでの学び、研究してきたことを最大限に活かして仕上げた、大学生活の集大成となる作品です。その一つ一つに込められた、様々な作者の思いを感じ取っていただけたら幸いです。



「スポーツコーチング科学コースの日常活動」

森元 由貴

スポーツコーチング科学コースでは、スポーツ指導の実践的能力の向上、地域におけるスポーツ活動の振興、冬季スポーツ活動の促進など、現代的なスポーツに対応できる力をつけるために、日々、学習や、部活動に励んでいます。

授業では、学年が上がるにつれて実践的な授業が増えてきます。仲間とともに地域活性化のための企画をしたり、教育実習にむけて、より良い授業づくりを目指し、意見を出し合う授業などを行ってきました。

部活動では、多くの部が全国大会に出場し、結果を残しています。いずれも教育大学を背負って、志高く活動を行っています。

また、本学部では、総合型地域スポーツクラブの「ロー」と連携しています。子どもと触れ合うことが好きで、「教育に携わりたい」という意欲のある学生が集まり、学生スタッフとして活躍しています。子供たちに遊びや様々なスポーツを教えることで、指導のスキルアップを目指す

こともできます。

大学は、目標を見つける場でもありません。将来自分がどうなるか、何をするかは、大学生活で大きく左右



されます。今後も、スポーツコーチング科学コースは、一人一人が輝くために、挑戦を続けていきます。

「芸術・スポーツ専攻の日常活動」

住 永 梨 帆

ビジネス専攻では、全学年を通して地域に密着した活動を積極的に行ってきました。

一年生は全専攻共通の科目である地域プロジェクトに加え、今年度より政策学概論で学内を盛り上げる様々なプロジェクトを実施しました。

数班に分かれ、プロジェクトを企画から実施まで「文化的なキャンパスをつくろう!」をテーマに活動しました。

また、七月二十八日に札幌駅前通南一条通で開催された「TOWN PICNIC SANDORO 2018」にスタッフとして参加しました。

二年生は一年生から続いて地域プロジェクトIIで活動するとともに、前年政策学概論で実施したプロジェクトから更に進歩したプロジェクトを文化政策学で企画・実施しました。この活動に関しては学生活動支援事業の一環で行いました。

三年生は、地域活性化プロジェクトにおいてアート班とスポーツ班に分かれ、年間を通して二回ずつイベントを企画・実施しました。地域住民の方々を中心としたターゲットを広い範囲に定めて活動しました。

まず、アート班で八月四日に栗沢町の「大地のテラス」敷地内にて「あおぞら自由研究」を開催しました。市内の小学生をメインターゲットに据え、家族全員が楽しめるイベントを企画しました。

続いて十二月十二日から二十七日

までHUGギャラリーにて開催された「蔵美」内で展示、音楽ライブ企画を実施しました。

スポーツ班では八月五日に岩見沢市営球場にて開催された北海道日本ハムファイターズ対西武ライオンズのイースタン・リーグ公式戦で配布されたタブロイド紙の紙面作成を行いました。また試合当日は球場スタッフとして参加しました。続いて一月二十六日には「大地のテラス」敷地内で「雪育」を開催しました。市内の小学生をターゲットに、雪の中でサッカーやストラックアウト、そりレースを企画し、楽しんでもらいました。



事務局便り

理事長 伊藤 祐 輔

九月十五日、胆振東部地震による被害と全道一円に及んだブラックアウトの影響で、開催が危ぶまれた「北海道教育大学五校同窓会会長会議」は、関係各位のご協力により、つつがなく開催することができました。会議については別項でもご紹介しておりますが、会議の前段に五校同窓会長様や理事長様方を母校岩見沢校の新しい施設を見学していただいた様子のことをお伝えします。

新しい体育館や運動能力向上を図るトレーニングルームや全天候対応グラウンドを見ていただいた後、Iホールでは音楽科コースの学生三名によるバイオリンとピアノの小アンサンブルを聞いていただきました。素晴らしい生演奏の披露に、同窓会長様方は大変感嘆され、学生との繋がりができていることにも感心されていきました。夏の研究大会後の懇親会にも音楽科コースの助教と学生三名が参加し、同じく生演奏を披露してくれていますので、今年度の学生達の協力を大変感謝しております。今後とも、ご協力をお願いしていきます。

たいと考えています。

十一月十七日に、松山 徹・前月形町教育長が退職されました。各教育局での指導主事から支援課長まで歴任され、最後は月形町教育長として、これまで職務に精励されてこられました。指導主事時代には、同窓会の指導主事部会でも我々教職員に対するご支援をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。退職後は久しぶりのゴルフを楽しみたいとの事でした。

一月十日、札幌市において、青陵会高校・特別支援学校・大学支部の総会が開かれ、その後の懇親会に早瀬会長と共に出席させていただきました。十人ほどの小グループでしたが、オホーツクの高校長や大学学長など全道各地から会員が参加され、和やかな雰囲気のもと、近況報告や大学時代の話に皆さんが盛り上がりつつありました。

若い二十代から三十代の会員が積極的に参加されていて、今後の支部の活動に期待されていました。

学科転換後少数ではありませんが、高校教員になる若い卒業生達の受け皿として、支部がその機能を発揮できるようにお願いをしました。青陵会本部といたしましても支援に努めて参ります。

《 お 知 ら せ 》

北海道教育大学事務局から、このたび寄付金の依頼が来ております。在籍する学生の教育活動支援その他のために活用したいことから、教育大学の五校同窓会の全会員に依頼文書等が発送されています。青陵会としましては、すでに岩見沢校への施設設備の寄付や学生生活活動支援事業等を実施しているため、団体としての寄付は考えておりません。そのため、各会員個人への寄付金の依頼として取り扱わせていただきますので、会員の皆様におかれましては、趣旨内容をご理解の上、会員のご判断のもとに寄付へのご協力をお願いするところです。よろしく願いいたします。

編 集 後 記

◇会報一〇三号をお届けいたします。本号の発刊にあたり、ご多用のところ玉稿をお送りくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。

〈広報・情報発信担当〉

部 長 松田 一直

副 部 長 江幡 佳代

部 員 一ノ瀬健太郎

小野寺英樹

沢 泰宏

北海道教育大学青陵会・教育懇談会(総会後)のご案内

日 時 2019年5月18日(土) 17:10~
 会 場 北海道グリーンランド ホテル・サンプラザ
 会 費 5,000円(予定)

- ※ 総会後の教育懇談会については、全会員を参加対象にしております。多数のご参加で、旧交を温めていただきたいと思います。
- ※ 後日、詳しい案内が各支部に送られますので、その際には希望者の取りまとめをお願いします。